

登山地図について

Trekking Information **楽山会**
自然の中で

登山ガイド 末永 直樹

登山地図とは、出版社が出している地図のことをいいます。
最も代表的なものは、昭文社が出版している『山と高原地図』です。



<http://yamachizu.mapple.net/>

日本百名山や日本アルプスなど、主要な山の地図が出版されています。

本日は、いわゆる登山地図だけではなく、登山に活用できる地図
ということで、説明させていただきます。

種類	発行元	縮尺	使用目的
登山地図	昭文社 山と高原地図	1/50000	一般登山コース
地形図	国土地理院	1/25000	一般登山コース 及び バリエーションルート
		1/50000	同上
地勢図		1/200000	山座同定
立体図	国際地図 くじゅう登山 マップ	1/40000	一般登山コース 山座同定
電子地図	国土地理院	1/6000	パソコン 及び GPS との連携が可能
		1/25000	
		1/50000	
		1/200000	
		メッシュ地図 50m	パソコンでのルート検討

地形図の販売所 金明堂書店 博文堂書店

両書店とも、在庫は、佐世保市周辺の1/25000の地形図のみ。あとは、注文となります。

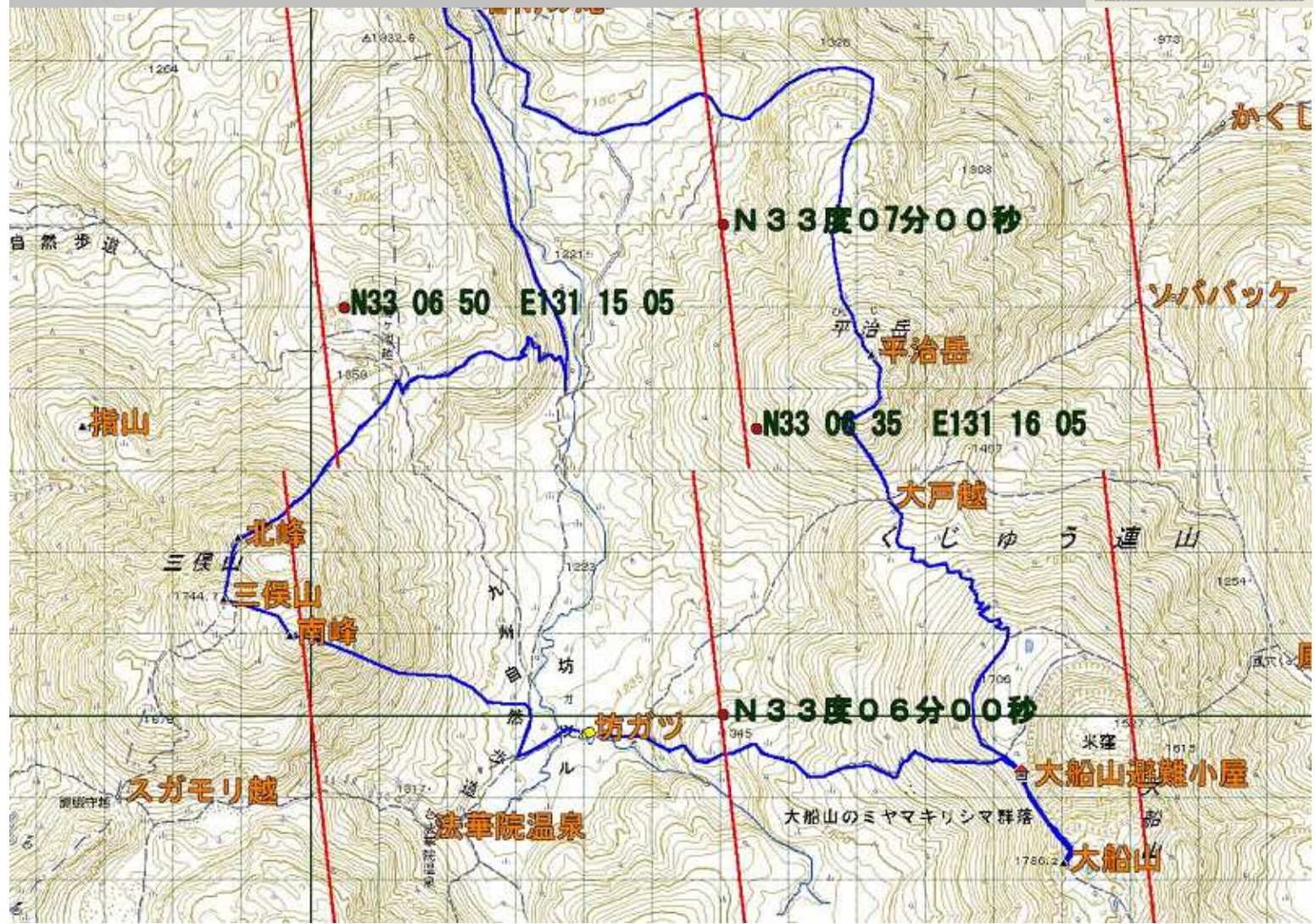


マーカー

距離	0.000km
沿面距離	0.000km
標高	947m
標高差	0m
傾斜	0.0°
勾配	0.0%
沈み量	0m

全区間

距離	15.541km
沿面距離	16.178km
標高差	0m
方位	270.00°
俯角→	0.00°
俯角←	0.00°
沈み量	-0m
推定時間	20:52:50
累積標高(+)	1688m
累積標高(-)	-1688m
見通し	見えません



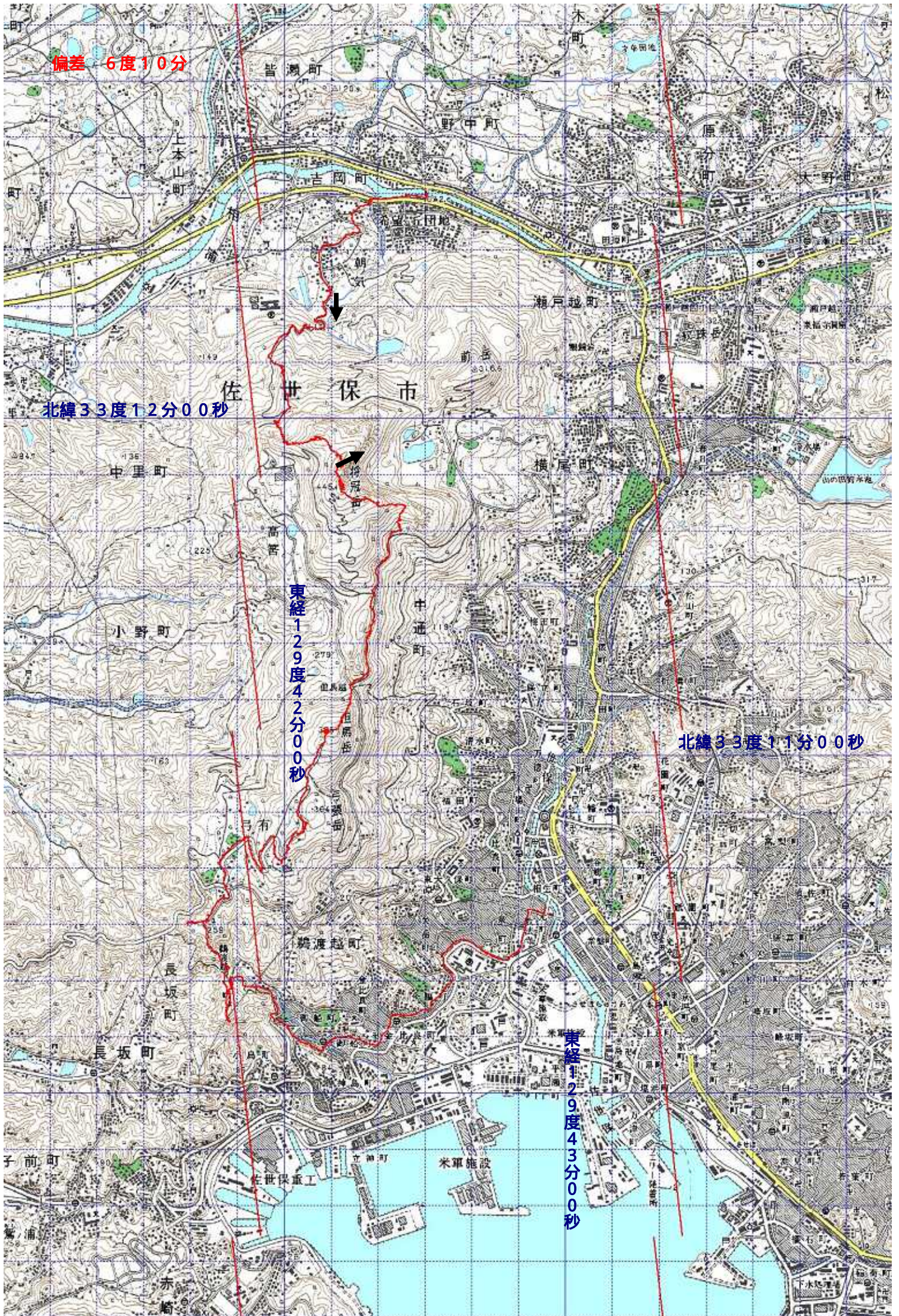
偏差 6度10分

北緯33度12分00秒

東經129度42分00秒

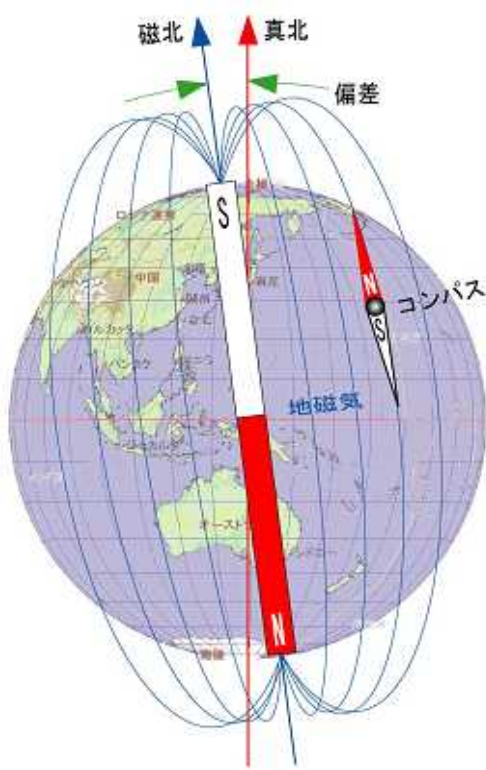
北緯33度11分00秒

東經129度43分00秒





将冠岳の位置（緯度経度）： 北緯33度11分48秒 東経129度42分12秒



偏差

磁気コンパスは地磁気に従って「磁北」(じほく)を指しますが、図のように地球内部は大きな磁石と仮定でき、その磁石は地軸に対して少し傾いています。その結果、真北と磁北が若干ずれることとなります。この偏りを「偏差」(へんさ)といいます。

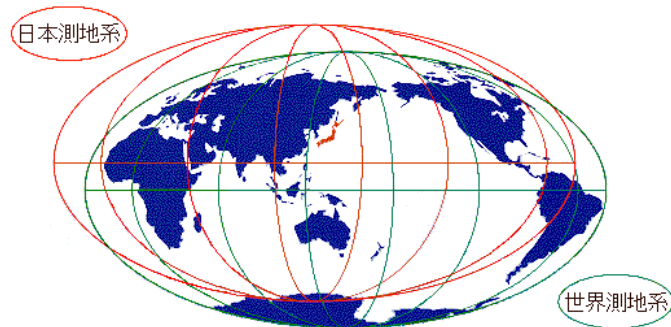
世界測地系移行

日本は、2002年4月1日から世界測地系へ移行しました。

経線・緯線は、地球を測る「ものさし」です。

日本では「ものさし」のあてかたが、

世界共通の「ものさし」と違っていました！？



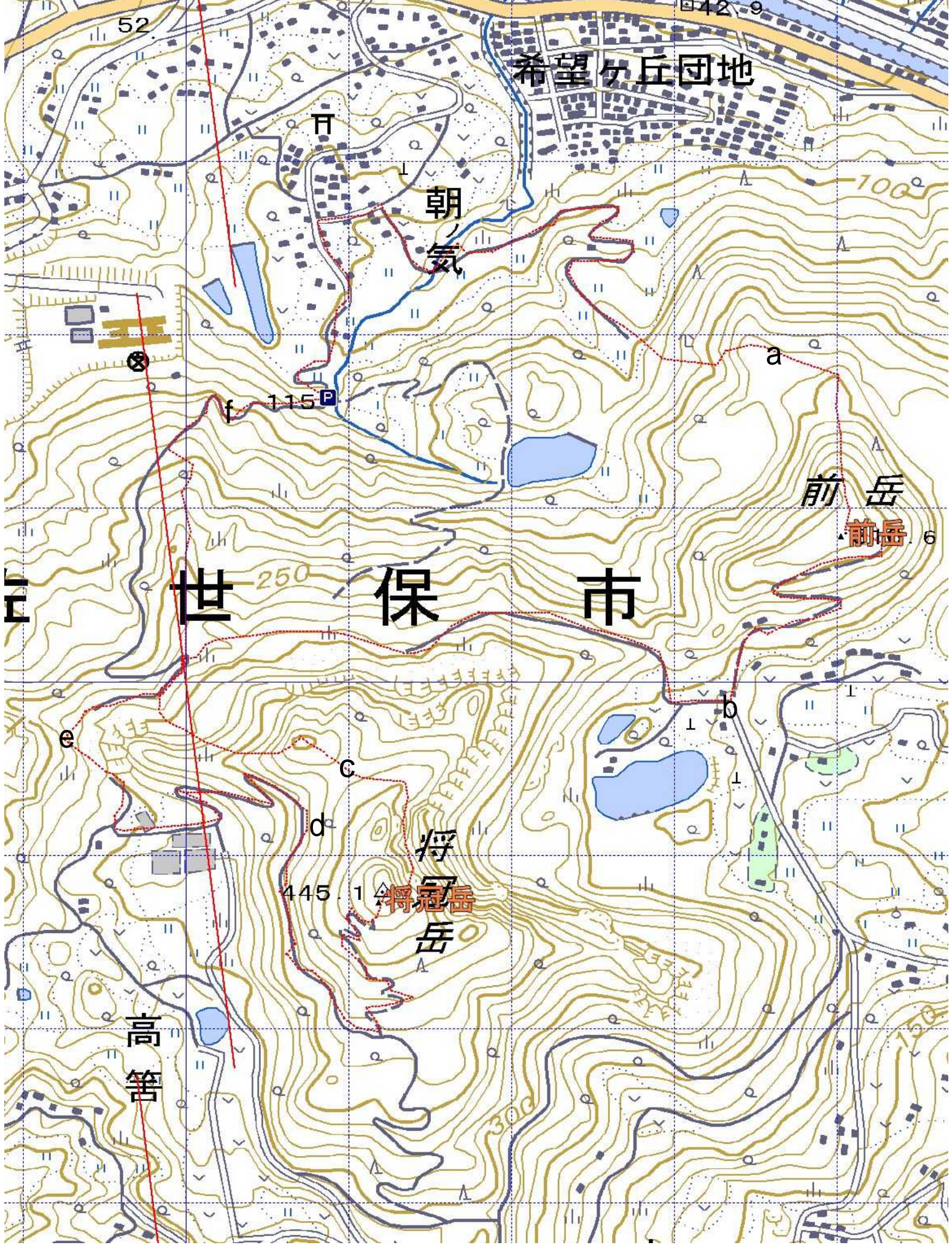
いま、日本の国土を測る「ものさし」が、

世界共通の、しかも、目盛りが極めて正確な「ものさし」に変わります。

注意！

移行後は、全ての測量を世界測地系で行わなければなりません。しかし、電子地図を除く、印刷物である全ての地図が、日本測地系から世界測地系へ移行するためには、時間がかかります。

日本測地系の地図で、世界測地系のGPSから得られた緯度経度で、現在位置を出すと日本国内では、北西方向に400m～450mずれが生じてしまいます。手持ちの日本測地系の地図を使用する場合は、計測するGPSも必ず日本測地系に修正してから位置を特定しなければなりません。



希望ヶ丘団地

朝気

前岳
前岳 6

世保市

将冠岳
将冠岳 1

高筈

52

42.9

100

250

300

445

115

a

b

c

d

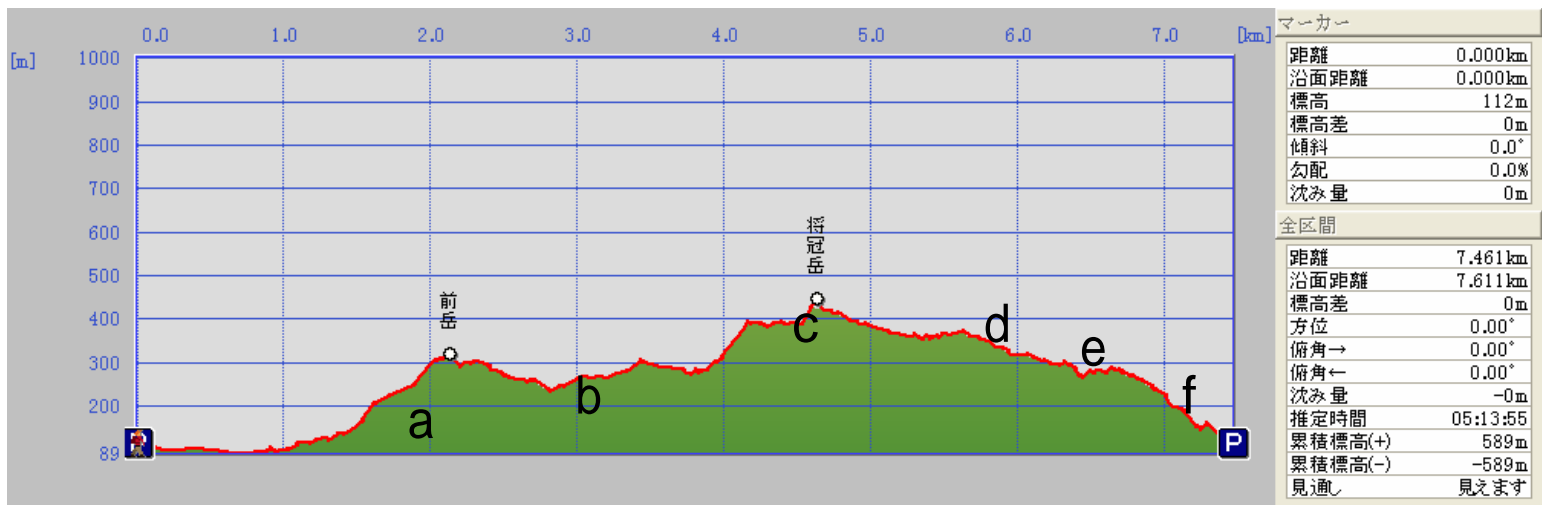
e

f

11

6

1



前岳堡壘 堡壘(ほうらい) : 要塞にとっての背面方向である陸地側を向いて、敵上陸部隊を砲撃目標とする。

実技講習
地形図とコンパスを使って山に登ってみよう！
(+ ツェルト初体験)



将冠岳

日時：H20年12月20日(土)

集合：野中町 中村ストア前(エレナ) 午前8時

解散： 同上 午後16時(予定)

講習料：5,000円【保険料含】(当日集合場所でお支払いください。)

松浦鉄道の野中駅着(佐々行) 午前7時56分が便利です。佐世保行は、午前7時34分着です。

【持参する物】

通常の登山装備(手袋・帽子は必ずご持参ください。)

シルバーコンパス(無償貸与可 但し2個まで)

各自お弁当とお茶を用意してください。

地形図は、ガイドが人数分を準備いたします。

お昼は、ツェルトの張り方を講習後、ツェルト内で暖かくして食事をします。

コーヒーとクッキーを準備いたします。



ツェルト(独:Zeltsackの略称)とは、登山用の小型軽量テントで、底が開くようになった三角形のテントである。元々は底もマチもない単純な袋状で、冬の悪天候のなか、キャンプに帰り着けない場合に一夜をしのぐためのものだった。頭から被ったり、体に巻きつけて使用するものだったが、現在の製品はポール等と組み合わせ、あるいは立木を利用することで通常のテントと同様に設営できるものが多い。不慮の幕営に使用したり、装備の軽量化のため計画的に使用する。ビバークテントともいい、小さくて持ち運びに便利で防水加工されている。通常のテントに比べて快適性に劣るが、ある程度の夜露を防ぎ、外気を遮断することが出来る。しかし、緊急用と割り切られ軽量を目指した商品が多く、15~30デニールと非常に生地が薄い。